

BCRETが東京に拠点、新規モダリティ人材育成へ 来年2月開設

2022/11/8 18:58



バイオロジクス研究・トレーニングセンター（BCRET）は7日、現在講習を実施している神戸大統合研究拠点（本部）に加え、実習講習を行うための新たな専用拠点を東京に設置すると発表した。日本医療研究開発機構（AMED）の支援の下で、2023年2月に東京都江東区の「三井リンクラボ新木場1」内に開設し、23年度から主に新規モダリティに関する実習講習を開始する。BCRETの豊島聡代表理事は同日の会見で、「これを機にBCRETは、日本のバイオ人材育成にさらに注力していく」と意気込みを語った。

BCRETは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造に関わる人材不足を背景に、当該分野での人材育成を目的として、17年8月に神戸大統合研究拠点内に設立された。18年度から講習を開始し、これまでに座学43回、実習33回の講習を実施。製薬企業、機材ベンダーなどの社員をはじめ、バイオ医薬品の審査やGMP適合性調査に関わる審査担当者などが受講し、受講者の延べ人数は座学講習で1013人、実習講習で250人になる。

今後、新たな講習プログラムを実施していくに当たり、神戸の拠点だけでは手狭になり、関東圏のニーズが特に高いことから東京に拠点を開設するに至った。また、三井不動産が手がける賃貸ラボ&オフィス「三井リンクラボ新木場1」に開設することで、そこに入居する企業などをはじめ、さまざまな組織との連携をやすくすることも視野に入れている。

これまで講習を行ってきた神戸拠点では、引き続きバイオ医薬品などを対象とした既存の講習プログラムを中心に実施し、東京拠点では主にmRNAワクチン・医薬や遺伝子治療、細胞治療といった新規モダリティにおける人材を育成するための実習講習を実施する方針。

豊島氏は、日本が抗体医薬で世界に後れを取ってしまった理由の一つに人材不足があるとした上で、「新規モダリティについては、日本はまだ遅れていない。世界に負けないようにするためにもこの分野の人材育成は非常に重要。東京拠点の開設はそうした問題意識が背景にある」と話した。